

開催概況

日時：平成29年12月13日（水曜日）

午後7時00分から8時30分

会場：東京都医師会 2階講堂

参加人数：52人（うち傍聴者24人）

参加団体等

- 区市町村
- 地区医師会
- 在宅医
- 病院
- 病院協会
- 歯科医師会
- 薬剤師会
- 看護協会
- 介護支援専門員研究協議会
- 老人保健施設協会
- 保険者協議会

主な意見交換の内容

【在宅療養に関する地域の現状・課題等について】

- 高齢者人口の割合は減少しているが、区全体の人口は増加しており、高齢者への対策が急務。ただし、地域で育った高齢者ではない住民も多くなっている。
- 区民の半数以上が在宅医療を望んでいる。
- 区内の在宅患者について、区外の先生が多く診療をしている。
- 区内にリーダー医師を10名置き、地域の課題の洗い出し・入院時の体制づくり等を行っている。
- 在宅医療を行う上で、患者・家族と向き合うことが大切。また、医師だけでは対応できないことも多いので、多職種との連携も重要。
- 訪問看護ステーションは増加しているが、廃止となるステーションも多い。支援が必要。
- 在宅歯科診療を実施する体制はあるが、ニーズがあまりない状況。患者からは、先生に来てもらうのが申し訳ないというような話も聞く。
- 在宅対応の薬局は増加してきてはいるが、今後の需要増加を見据えると、地区全体で対応できる薬局を増やすことが必要。

【地域と病院の連携について】

- 急変時の対応など、区で5ブロックに分けて連携をとっている。
- 病院へ紹介した患者が地域（紹介元）に帰ってこない。
- 急性期からの転院において、近隣区では病床が満床の場合も多く、遠くへ転院してもらうケースがある。
- 在宅での受入れにあたって、様々な処置が必要な患者も多く、受け入れ側の質の担保も重要。
- 病院は電子カルテ情報は持っているので往診の状況などはわかるが、地域の誰と連携しているかわからない。
- 地域包括ケア病床を、退院前のワンステップとして使用。在宅のバックアップの体制が少しずつできてきた。
- 病院と診療所間・病院間の連携は上手くいっている。
- 情報シート（ケアマネが入院時に情報を記入したシート）を作成し、運営を開始。
- 病院から病院に転院等する際の情報共有ができないのが課題。
- 病院において、退院シートの活用・退院前カンファレンスの実施、また、ケアマネ等との会議を実施し、交流を図っており、顔の見える関係が構築されつつある。